

日本人冠動脈疾患合併 2 型糖尿病患者におけるアナグリプチン 及びシタグリプチンが LDL-C に与える影響の非盲検 無作為化群間比較

糖尿病は、インスリンの作用不足による慢性の高血糖状態が続く病気です。我が国では、糖尿病が強く疑われる方と糖尿病の可能性を否定できない方を合わせて、約 2,050 万人と推定されています。糖尿病は狭心症や心筋梗塞の危険因子のひとつであり、糖尿病の患者さんは健康な方と比べ、3 倍以上も、心筋梗塞を起こしやすいことがわかっています。さらに、欧米では糖尿病の患者さんの 40～50%が心筋梗塞で亡くなっていることや、糖尿病を持った患者さんが心筋梗塞を起こすと、心筋梗塞の再発症率が大幅に高くなることなども報告されています。海外の報告をそのまま日本人に当てはめることはできませんが、狭心症や心筋梗塞と糖尿病の合併は、他の血管に関係した病気を起こしやすく、その予防のためには、血糖、血圧、コレステロールなどをコントロールすることが重要です。なかでも、LDL-コレステロールの管理の重要性は、すでに多くの研究によって明らかにされています。近年開発、発売された糖尿病薬であるジペプチジルペプチダーゼ-4(DPP-4)阻害薬は糖尿病の管理指標である HbA1c を良好に改善させるだけでなく、LDL-コレステロールへの効果も指摘されています。DPP-4 阻害薬にはシタグリプチン(商品名ジャヌビアまたはグラクティブ)やアナグリプチン(商品名スイニー)など、いくつかの異なる種類がありますが、LDL-コレステロールへの効果が薬により異なる可能性があります。

本研究は、既に高コレステロール血症の治療薬を飲んでおられる 2 型糖尿病の患者さんにおいて、アナグリプチンとシタグリプチンのどちらが、より LDL-コレステロールを低下させるか比較検討することを目的に計画された研究です。

本研究は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会(臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会)においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。